

は、鏡下で白っぽく見える湿原をともなった雄国沼が見られる。このカルデラ地形は、地下から多量の溶岩や火山碎屑物、火山泥流等を噴出し、猫魔火山を形成した後で、山頂部が大規模に陥没してでき上った。

2 中央火口丘

カルデラの陥没後も火山活動が続き、陥没壁の割れ目によって噴石や溶岩を噴き出し、陥没壁に沿って、いくつかの小さな噴石丘ができた。鏡下では豆つぶのような形の大平、丸山、猫石の噴石丘が観察される。

3 外輪山

カルデラ陥没火口壁を取り囲むように、陥没カルデラが形成された後の火山活動で、寄生火山として、猫魔ヶ岳、廐岳山、古城峰、

二子山、雄国山がそれぞれ噴出して、外輪山として現在の火口壁を形成している。

〈実習 5〉

図16は、松川浦周辺の空中写真である。松川浦周辺では、海水の作用でつくられた砂州、海食崖、潟湖等、海岸でなければ観察できない地形が観察される。実体鏡を用いて、次の地形を観察せよ。

- 1 鶴の尾岬や山信田の海食崖
- 2 砂州（大州）や中州の形とその並び方
- 3 宇田川や小泉川の川口周辺にできた三角州と潟湖の水深

―チェック・ポイント―

松川浦は、潮干狩で親しまれており、海岸特有の地形が観察される。松川浦で見られる地形は、海水のはたらきである波浪による浸食や沿

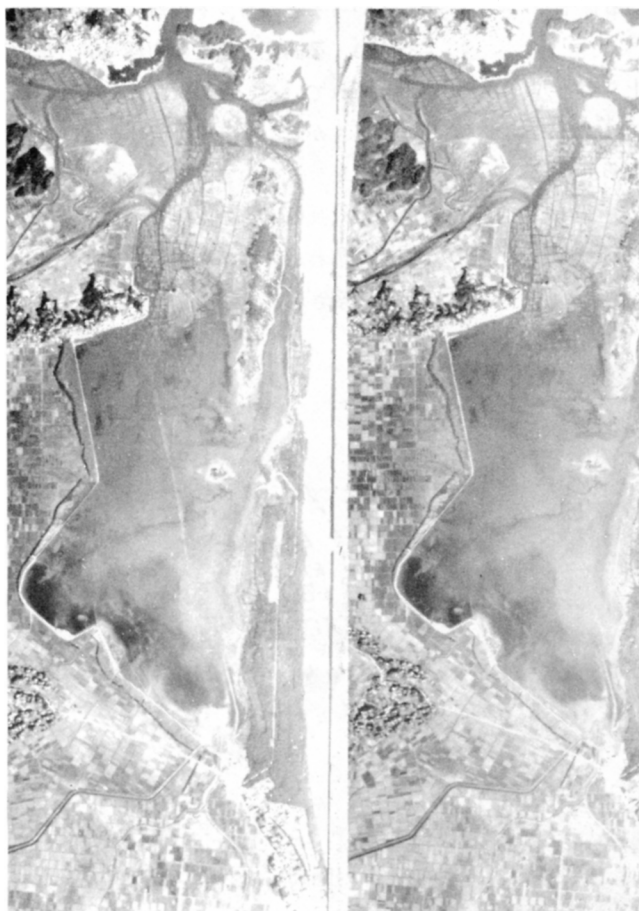


図16 松川浦（空中写真）

（団地総複発第179号）

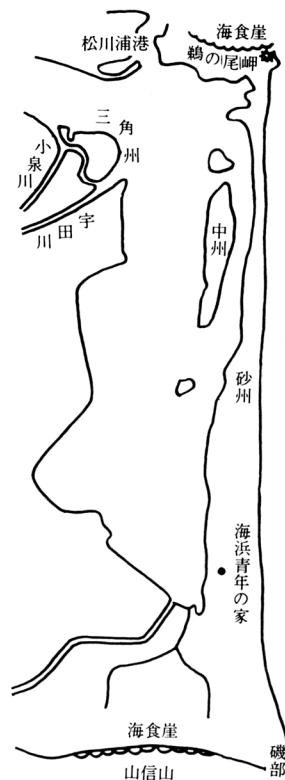


図17 松川浦（解説図）